

中国人学習者のための日本語教育文法と第二言語習得研究

北京日本文化センター 日本語教育講座2012 第二回講座

2012年11月22日（木）午後3：30～5：30

大阪府立大学人間社会学研究科教授

張麟声先生ご講演

「中国人学習者のための日本語教育文法と第二言語習得研究」

張麟声先生は、大阪大学大学院文学研究科後期課程を修了されて後（文学博士）、立命館アジア太平洋大学教授を経て、現在は大阪府立大学にて学生の指導と研究に従事していらっしゃいます。ご専門は日中対照言語学で、その基礎の上に、中国語話者の母語転移を中心とした日本語の習得や、日本語教育のための類義文法表現などについても研究・発表なさっています。ご著書に『日本語教育のための誤用分析—中国語話者の母語干渉20例』（スリーエーネットワーク）『中国語話者のための日本語教育研究入門』（日中言語文化出版社）などがあります。

今回は、日本語教育文法と第二言語習得研究という視点から、中国人学習者のための日本語教育についてお話いただきます。

時間：2012年11月22日（木曜）午後3：30～5：30

講師：張麟声先生（大阪府立大学人間社会学研究科教授、博士課程指導教官）

場所：国際交流基金 北京日本文化センター ホール

北京市朝阳区建国门外大街甲6号SK大廈3层301

地下鉄「国贸」駅D出口（徒歩2分）

参加費：無料

使用言語：日本語

*講演後、張麟声先生を囲んで、会費制自由参加の食事会を設けます。参加ご希望の方は申し込み時にお知らせください。会費は100元以下の予定です。

申込方法：

来場ご希望の方は、氏名・所属先・携帯電話番号・食事会参加不参加を明記の上、11月21日(水)までにメールでお申し込みください。場所の都合上、定員に達した場合お断りすることもあります。

宛先：nihongo@jpfbj.cn

国際交流基金 北京日本文化センター

<http://www.jpfbj.cn/>

電話：010-8567-9511

皆様のご参加をお待ちしています。

2012年第7回全国大学日本語教師研修会の実施報告

「教育と研究のクロスロードー日本語教育と研究を結び、日本語教育研究と実践を結ぶー」

日程：2012年7月16日～7月20日

会場：中国海洋大学国際交流センター（青島市）

主催：国際交流基金北京日本文化センター

中国教育部高等教育出版社

協力：北京日本学研究中心

後援：日本国駐青島総領事館



参加者：全国の大学日本語教師

190名

研修会の目的

- 日本語教育研究の動向を紹介する。
- 日本語教授法、実践について考え、議論する場の提供。
- 文化に関する情報提供、または研修参加者による情報交流を促進する。

日程表

	16日(月)	17日(火)	18日(水)	19日(木)	20日(金)
8:30		開幕式(記念写真)			
9:00-10:25		コーパスによる 日本語研究の事例 徐一平	第二言語習得と 日本語教育 松浦とも子, 柳坪幸佳, 鈴木今日子	協働学習ワーク ショップ 池田玲子・岩田夏穂	視察
10:35-12:00		教材作成と分析の 2つの要素 陳俊森			
12:00-13:00					
13:00-14:00			文化DVD 東日本大震災 からの復興	文化DVD 東日本大 震災からの復興	

14:00-15:25	登録	協働学習の問題と効果 朱桂栄、王星、 楊雅林、趙冬茜	日本語教育における 文学教育の重要性 周異夫	日本語教育文法 曹大峰
15:35-17:30		協働学習の意義から総合 日本語を考える 林洪	私の日本語教育研究 張文麗、王文賢、 唐画女	交流基金と 高教社の紹介
		懇親会		修了式

内容

①コーパスによる日本語研究の事例

講師：徐一平（北京日本学研究中心）

コーパス研究の必要性和大型コーパスを利用した研究が紹介された。具体的には国立国語研究所のコーパスを使用し、「～ながら」の特殊用法について例を挙げながら、中国人研究者ならではの視点で研究をすることの意味が論じられた。また、検索方法を知っておくことの大切さや、応用方法自体は研究者側が考えるべきだということなど、研究にあたっての心構えも触れられていた。

参加者の中にはコーパス自体について知らない人もいれば、非常に専門的な知識を持っている人もいて、関心が高い様子が見受けられた。



②教材作成と分析の二つの要素

講師：陳俊森（華中科技大学）

応用研究である教授法研究、誤用分析、対照研究を活かして教材作成をする視点と、教材分析をする際の観点、及び量的分析結果の解釈基準などを具体例が挙げながら論じられた。その中で、日本語教材分析で量的分析や学習者視点でのフィードバックがもっと行われるべきだという問題提起も行われ、日本語教材も時代とともに進歩していること、最新の研究成果が教材に取り入れられていることが話された。

中国で入手できる研究書の紹介もされ、参加者は熱心に書き留めていた。

③協働学習の成果と課題

講師：朱桂栄（北京日本学研究中心）、王星（青島理工大学）
楊雅林（北京日本学研究中心博士課程）、趙冬茜（天津外語大学）

協働学習の位置づけについての全体的な話しの後、協働学習を実際の授業に取り入れてみて、失敗例と成功例を三人の教師がそれぞれの観点から発表した。精読、翻訳、聴解授業の具体例で、その後、グループディスカッションもあり、参加者の中に協働学習に関するイメージが共有できた。

④協働学習の意義から総合日本語を考える

講師：林洪（北京師範大学）

上記③の話題を受けて、従来の授業でのグループ学習とConstructivism構造化主義の理念による協働学習の意味の違いを明らかにし、具体例を挙げて、学習者がどのように協働を通して学んでいるかを紹介した。

また、協働学習の学生側と教師側の問題について分析され、解決案が論じられた。それぞれの学習法の特徴を生かし授業に組み込むことの必要性が説かれた。



⑤第二言語習得と日本語教育

講師：松浦とも子、柳坪幸佳、鈴木今日子（北京日本文化センター）

第一言語習得研究を概観した後、第二言語習得の基本的な理論の確認をし、どのように言語の習得がなされるのか、参加者自身の経験を振り返りつつ講義を進めた。また、教室習得と自然習得のインターアクションを比べ、第二言語習得のプロセスを授業にどう生かすかを、グループディスカッションを通して考えた。

⑥日本語教育における文

講師：周異夫(吉林大学)

日本語教育の現状と課題を概観した後、レベルの高い日本語人材の育成という課題のために上級の日本語教育をどう捉えればいいのか、JF日本語教育スタンダードのCan-doで確認した。そして、真の「実用的」な日本語を、「知的」な日本語、教養ある日本語と捉え、文学教育の意義と実践例が論じられた。



⑦わたしの日本語教育研究

講師：張文麗(西安交通大学)、王文賢(中国海洋大学)、唐画女(青島理工大学)



若手の研究者三名による、日本語教育研究の発表。それぞれのテーマは、張『学習者の認知活動に働きかける指導に関する実証的研究』、王『学習者同士のインタラクションが日本語学習に及ぼす効果』、唐『日本文学授業におけるピア・リーディング法の応用研究』である。各30分の発表の後、フロアから日本語教育研究に対する熱心な質問が出されていた。

⑧協働学習による授業デザイン

担当：池田玲子(東京海洋大学)岩田夏穂(大月短期大学)

池田氏による「協働学習」に関しての理論的枠組みの講演を挟みながら、参加者は実際にワークショップを体験し、楽しみつつ「協働学習」の意義と方法を理解した。参加型活動としては、4コマ漫画を利用して台詞を考えたり、シンデレラのその後のストーリーを考えて発表しあったりした。「協働学習」の授業デザインのポイントを学んだことによって、実際の授業で是非実践したいという声が多く聞かれた。



⑨中国語母語話者のための日本語教

講師：曹大峰(北京日本学研究中心)

文法教育の状況と認識の変遷を振り返った後、『基礎日本語シリーズ教材』の文法シラバスと設計目標について紹介した。シラバス開発のために文法教育項目データベースを整理したプロセス、また新しい活用体系及び用語の考案についても述べられた。それによって、話題と内容を重視する教科書の中で、いかに文法シラバスの配合を順序が工夫されたか、主体的な学びを導くためにいかに解説と指導法の工夫がなされたか、などが明らかになった。

⑩「活力日本 東北DVD」放映

3.11東日本大震災からの復興に向けて、東北の人々が立ち上がる姿を描いた国際交流基金のDVD(NHKドキュメンタリー)を放映した。参加者からは、東北の夏祭りの開催に向けて動く人たちの想いに感動したという声が多く聞かれた。

参加者の声

内容が充実している。(多数)

日本語教育の最新の研究とかいろいろな内容が含まれていた。(多数)

新しい教育方法(協働)を詳しく紹介してくれた。(多数)

よい刺激を受けた。(多数)

協働学習を授業に取り入れたい。(多数)

他校の教師と交流できてよかった。(多数)

スケジュールがちょっとハードだった。(複数)

時間が少し短かった。(複数)

研修会が段取り良く行われていて満足。(複数)

紹介された教え方は自分の授業に役に立つ(多数)

理論だけではなく、具体的なやり方もあって役に立った。(多数)

新しい研究方法を知ることができた。(複数)

年齢が大体同じ先生のレポートを聞いて、自分も進歩しようと、意欲がわいた。自分の授業で活用したい。(多数)

文学教育における新たな見識を得た。(多数)

講義型より参加型がよい。(多数)

研修の場所がすごくいい。涼しくて、きれいな青島。(複数)

日本語教育講座 第三回講座 開催案内（1月25日）

2013年1月25日（金）午後3：30～5：30

東京大学大学院総合文化研究科教授

楊凱栄先生ご講演

「日本語教育における対照研究の必要性」

楊凱栄先生は筑波大学博士課程を修了されて後（文学博士）、九州国際大学を経て1995年から東京大学大学院総合文化研究科で学生の指導及び研究に従事していらっしゃいます。ご専門は中国語と日本語の対照研究ですが、中国語学の分野、日本語学の分野でも多くの論文を発表していらっしゃいます。具体的な研究テーマは、中国語の時制に関する研究、空間移動を表す方向補語に関する研究、ヴォイスの日中対照研究、全称詞に関する日中対照研究、授受表現の日中対照研究、連体修飾に関する日中対照研究など幅広く、代表のご著書としては『日本語と中国語の使役表現に関する対照研究』（くろしお出版）などがありますが、ほかに中国語テキストのご執筆も多く手掛けていらっしゃいます。NHK「まいにち中国語(2009)」の講師もなさっていたので、ご存知の方も多いと思います。

今回は、「日本語教育における対照研究の必要性」をテーマに、日本語と中国語の具体例を挙げながら、対照研究の意義や方法、面白さ、さらに、外国語教育における対照研究の必要性や実用性などについて、お話しさせていただきます。

時間： 2013年1月25日（金曜）午後3：30～5：30

講師： 楊凱栄先生（東京大学大学院総合文化研究科教授、兼中国人民大学講座教授）

場所： 国際交流基金 北京日本文化センター ホール
北京市朝阳区建国门外大街甲6号SK大廈3层301
地下鉄「国贸」駅D出口（徒歩2分）

参加費： 無料

使用言語： 日本語

*講演後、楊凱栄先生を囲んで、会費制自由参加の食事会を設けます。参加ご希望の方は申し込み時にお知らせください。会費は100元以下の予定です。

申込方法：

来場ご希望の方は、氏名・所属先・携帯電話番号・食事会参加不参加を明記の上、1月23日(水)までにメールでお申し込みください。メールの件名は「1月25日講座」をお願い致します。場所の都合上、定員に達した場合お断りすることもあります。

宛先：nihongo@jpfbj.cn

国際交流基金 北京日本文化センター

<http://www.jpfbj.cn/>

電話：010-8567-9511 ♪ 皆様のご参加をお待ちしています。

